

玉縄の歴史をたずね



30余年

玉縄歴史の会 会長

チームサムライ顧問

関根 肇さん(城廻在住)

玉縄の地をこよなく愛するが故からでしょうか。玉縄地区社会福祉協議会の会報には10年以上にわたり、玉縄古今の生活ぶりが関根さんの手により紹介されています。町内会だよりやミニコミ紙などでも、玉縄のこととなれば関根さんの健筆ぶりは光ります。

「頼まれればお供もします。自分の勉強にもなりますのでね」と、執筆活動だけにとどまらず、玉縄の歴史散策では関根さんが案内人を務める姿が見られます。散策会参加者らと玉縄に残る歴史の足跡をともに探し、玉縄城500年の歴史もさることながら明治、大正期の玉縄の成り立ち、日々の生活ぶりなど興味深い関根さんの話には、参加者が耳をそばたてます。

玉縄風土記や玉縄史跡めぐりの刊行

関根さんはじめ歴史の会の皆さんによって、玉縄風土記の副題をもつ「玉縄の歴史と文化」が13年に刊行されました。A4版250ページにイラストと写真で構成し、表題通り地域の歴史と文化を、判りやすく解き明かしています。

その前年には「玉縄史跡めぐり」を発行しています。ポケットにも収納可能な、コンパクト製本で、玉縄地域の地図と94点余りの寺社や石碑などの由来は、関根さんの手によるものでした。



(玉縄女性の会の皆さんと。右から二人目が関根さん=龍寶寺で)

玉縄の歴史とかかわりを持ったのは今から30年ほど前。関根さん自身はサラリーマンで転勤族。玉縄をじっくり眺めるいとまなど、当時はなかったそうです。1950年、龍寶寺の前住職ら郷土史に造詣深い人たちで「玉縄郷土研究会」が発足しました。メンバーには関根さんの父親も参加され、自宅にはいろいろな研究資料が持ち込まれていたそうです。

「父親が亡くなってからですが、研究会の皆さんから跡継ぎはあなただ」と、言うことになっていつしかメンバーに仲間入り。いまから30年余り前のことでした。

この研究会は平成12年に解散することになりますが、平成10年にはやはり郷土史に関心を持つ人たちによって、玉縄の歴史を語る会が誕生します。この会が後に歴史の会に名を変え、郷土研究会解散後の関根さんは歴史の会の活動に参画することになりました。研究会時代の15年、そして玉縄歴史の会としての15年の30年余を、玉縄の郷土史研究に情熱を注いできたことになりました。

4000曲もの民謡収集

「もともと郷土史より、私には他の趣味があって、そっちの方にずっとのめりこんでいたんですよ。転勤がいい機会を与えてくれましたから」という。実は、各地にうずもれている民謡の発掘、保存が関根さんの一面の心のよりどころでもあったわけです。

もっとも古い民謡と言われる五箇山の「こきりこ節」などは、田踊り、五穀豊穡を願ってのもののようなのですが、農民たちによって伝承されてきた玉縄の地も、やはり古くから謡い継がれる民謡と相通じる何かが、関根さんの琴線に触れたに違いありません。自宅には4000曲を超える全国の民謡が収集されているそうです。

2015/7月 (文責・上山)